



病害虫の早期発見に努め、適切に防除しましょう！

予想期間 5月下旬～6月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 昨年9～10月の再生稲調査での本病の発生は平年並 (ほ場率：68%、株率：4%) (±)。昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の発生量はやや少なく (-)、保毒虫率は平年並 (±) であった。
向こう1か月の平均気温は高く (+) 降水量は多い (-) 見込み。
- (3) 対 策 ・ 昨年発生が多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備 考 ・ [令和6\(2024\)年度植物防疫速報 No.13](#) を当センターホームページ (HP) に掲載中。

2 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い (ほ場率：平年比294%) (+)。
向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多く (+)、日照時間は少ない (+) 見込み。
- (3) 対 策 ・ 開花・出穂期での発生がない場合でも、不稔粒発生や曇雨天などによって登熟期後半に多発することがある。ほ場をよく確認し、収穫前日数に注意して追加防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [令和7\(2025\)年度植物防疫ニュース No.2、No.4](#) を当センターHP に掲載中。

3 トマト コナジラミ類 (黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV))

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い (ほ場率：平年比161%) (+)。
向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多い (-) 見込み。
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部 (出入り口、側窓、天窗) に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
耐病性品種を作付けした場合でも、コナジラミ類を防除する。
栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底する。
- (4) 備 考 ・ [病害虫防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#) を当センターHP に掲載中。

4 きゅうり ベと病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比107%、株率：平年比113%) (±)。
向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多く (+)、日照時間は少ない (+) 見込み。
- (3) 対 策 ・ 多湿条件で多発するので、適正なかん水と換気を行う。
草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
予防を主体にジャストフィットフロアブル (F:43、40) 等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [キュウリべと病薬剤感受性検定結果](#) を当センターHP に掲載中。

5 果樹 カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数はやや少ない (±)。
向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多い (-) 見込み。
- (3) 対 策 ・ 4mm目合い以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では、特にほ場をよく観察し、発生の有無を確認する。
- (4) 備 考 ・ 夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。
・ [チャバネアオカメムシの薬剤感受性検定結果](#) を当センターHP に掲載中。

6 なし ナシヒメシクイ

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 掘 ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数はやや多い (+)。
・ 向こう1か月の気温は高く (+)、降水量は多い (-) 見込み。
- (3) 対 策 ・ 交信攪乱用フェロモン剤を設置する。
・ フェロモントラップ調査の誘殺ピークを参考に、薬剤散布時期を検討する。第二世代幼虫は第一世代成虫の誘殺ピーク (例年6月第2～3半旬頃) の7～9日後が目安。
- (4) 備考 ・ なしの新梢に幼虫が食入して引き起こした心折れの被害が確認された場合は特に注意する。
・ [フェロモントラップの調査結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
トマト	葉かび病	やや多	多い	なし	黒星病	平年並	やや多
	うどんこ病	やや多	平年並		アブラムシ類	平年並	平年並
きゅうり	うどんこ病	平年並	やや少	きく	ハダニ類	やや少	やや少

【 季節の病害虫防除対策 】

○施設栽培の病害虫

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病 (TYLCV：タバココナジラミ)やトマト黄化病 (ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。
- ・ また、施設栽培作物の栽培終了後には、次作に向けて土壌消毒を実施しましょう。植物残さ内の病原菌は消毒されにくいので、ほ場から植物残さを持ち出す等、適切に処分しましょう。また、効果的な土壌消毒の実施のためには、十分な耕起、砕土の実施や、適度な土壌水分管理が重要です。詳細は、[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針の技術情報](#)を御確認ください。
- ・ いちごは親株と本ぼの管理作業が重なる時期です。本ぼで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ぼ作業後に親株の管理作業を行わないようにしましょう。

○定植前後の防除の徹底

- ・ なす・ねぎ・にら等の野菜類では、定植前後の病害虫防除が重要です。育苗・定植時の粒剤・かん注剤の使用や、定植後の適切な薬剤散布により被害防止に努めましょう。

○うめ・もも・すもも等 クビアカツヤカミキリ (特定外来生物)

- ・ 暖かくなると幼虫の動きが活発になるため、フラス(木くず)の排出が盛んになります。県内での発生地域は拡大傾向にあるので、これまで発生が確認されていない園地においても見回りを行いましょう。発見時には農業総合研究センターまで御連絡ください。
[令和6\(2024\)年度植物防疫ニュース No. 3](#)を当センターHPに掲載中です。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・ 本県のトマトでトマトキバガによる被害が確認されています。茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗します。ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。
[令和7\(2025\)年度植物防疫ニュース No. 3](#)を当センターHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和7(2025)年5月14日現在、全国36都道府県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。
[サツマイモ基腐病に注意!](#)を当センターHPに掲載中です。

【 農薬の安全使用等 】

○農薬危害防止対策

- ・ 農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・ 農薬を使用する際には容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・ 薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

- ・花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○春の農作業安全確認運動

- ・4月～6月は「[春の農作業安全確認運動](#)」の実施期間です。
- ・農業機械の転落・転倒対策、熱中症予防対策、安全意識の向上のための対策等を徹底し、農作業安全に努めましょう。

1か月気象予報（予報期間5月17日から6月16日 5月15日気象庁発表）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10	30	60
降水量	20	30	50
日照時間	50	30	20

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部（[@tochigi_nousei](#)）」、農業総合研究センターホームページ

（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。

カメムシ防除作戦のホームページも御確認ください

（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html>）。

